

30th Thursday January

(第3種郵便物認可)

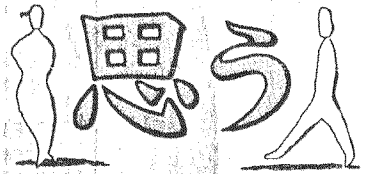


毎・日・新・聞



Mainichi Newspaper

生



「かわいくて飼うのでなく、可哀そう——から始まりました。捨てられていたのを見かねて引き取ったのが始まり。もうかれこれ二十年。いろんな捨て犬や猫たちと暮らし、動物の置かれている問題状況に気付き、動物保護運動にもかかわってきました。現在、同居中は、犬四匹、猫十二匹。台所付きの約二十畳の板敷き居間が彼らの居室でわがもの顔。独立家屋（敷地約三百平方メートル）ではあっても、住宅地の一角です。ご近所に迷惑がかららないように、また交通事故の心配もあります。だから、散歩以外は外へは出しません」

「捨てられたのですから雑種ばかり。虐待がやっぱりあるのですね。猫のケイちゃんはおしりを大ヤケドをしていました。」

捨て犬・猫と
"18人"家族の

あまのりょうこ
天野 涼子さん(65)

年間80万匹処分されている



大阪市生まれ。内科開業医の英敏さんと結婚。約20年前から夫婦で日本動物保護連盟、エルザ自然保護の会員。動物実験廃止、犬猫不妊去勢手術推進などの運動を続けている。

——大阪の自宅で（撮影・山田耕司）

中学生たちがガソリンをかけ火をつけた。人工肛門をつけもう十年。オス猫のダンは発音ができない。いろんな不幸を背負ったのが来ています。片手のない子もいましたが九歳で早死にしました。心臓マヒでした」

「そりゃあ、いたずらしますよ。暴れ出すと家の中はメチャクチャ。特に、猫はドアや壁をひっかく。腹が立つこともある。しかし可愛いし、時には笑わせしてくれます。ペットばかりです。が、子供さんのいる家だとやはり

りいいことだと思えますね。弱いものの気持ちを察し、いたわる気持ちが生まれる。これは、人間社会にも大切なはずですから。いたずらを我慢できないで、猫は飼えないし、排便の世話もしなければなりません」

「言いたいことです。やはり、飼えば家族の一員です。子供二人の家族なら三人目の子供と思ひ、最後まで面倒をみるのが義務だと思いますね。ファッショ的なペットばかりと言われますが、実際、比例するように

捨てられる犬猫が増えていくのです。ペットを飼うには、飼うモラルがあると思います。人間のための飼い方ではなく、動物自身のための飼い方をする。交通事故の心配があるが、出来るだけ鎖につながない。少なくとも、つなぎっ放しにしない。要は飼い方です。十分な食事と十分な散歩。これだけで、犬が人をかむことはないと言われま

す。愛情と面倒見が必要ですよ」

「言いたいことはほかにまだまだ（笑）。犬、猫の去勢や

ペットは最後まで飼うのが義務

不妊手術をせひしてほしい。捨て犬、猫を出さない一番大事なことです。日本動物保護連盟（本部・東京、電話03・38813・7825）でも去勢・不妊の相談を受け付けています。またペットブームのかげで進んでいるのが、一部業者による無理な「ブリーダー」と呼ばれる繁殖です。動物のお母さんが可哀そうです。出産すると赤ちゃんを取り上げ、年四回もお産させられる。これはもう、動物虐待です。やはり過度なファッション化は終わりにしてほしい。現在、日本で保健所などがつかまえて「安楽死」させている犬、猫が年間八十万匹。アルバート・シュバイツァーが、こんなことを言っています——

△「一国の道徳と文化は動物への態度と扱いによって容易にわかる」

（聞き書き 横山 真佳）